

2018 年 6 月 30 日

連続講座「考古学からみた鴨東の歴史」第 6 回

発掘調査から見た中世の鴨東

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 内田 好昭

1 白河北殿と白河南殿



図 1 保元の乱合戦図〔入間田 1991〕

保元元年（1156）7月2日に鳥羽法皇が亡くなると、京都は崇徳上皇側と後白河天皇側とに分裂し、争いが起こりました。7月11日の未明、後白河天皇側の源義朝・平清盛が鴨川の東にあった崇徳上皇の御所白河北殿を襲撃し、勝利を収めます（保元の乱）。院政時代の象徴ともいべき白河殿は炎上し、これ以降、武士の力が強まります。武士の時代である「中世」の幕開けは、鴨東から始まったといえるかもしれません。

今日は、この白河殿跡の発掘調査成果からご紹介することにいたしましょう。

(1)白河北殿・白河南殿の位置

白河法皇の御所である白河南殿(泉殿)と白河北殿は鴨川の東にあり、大炊御門大路末（現在の竹屋町通の東への延長道路）をはさんで、南北に並んでいました〔杉山 1981〕。

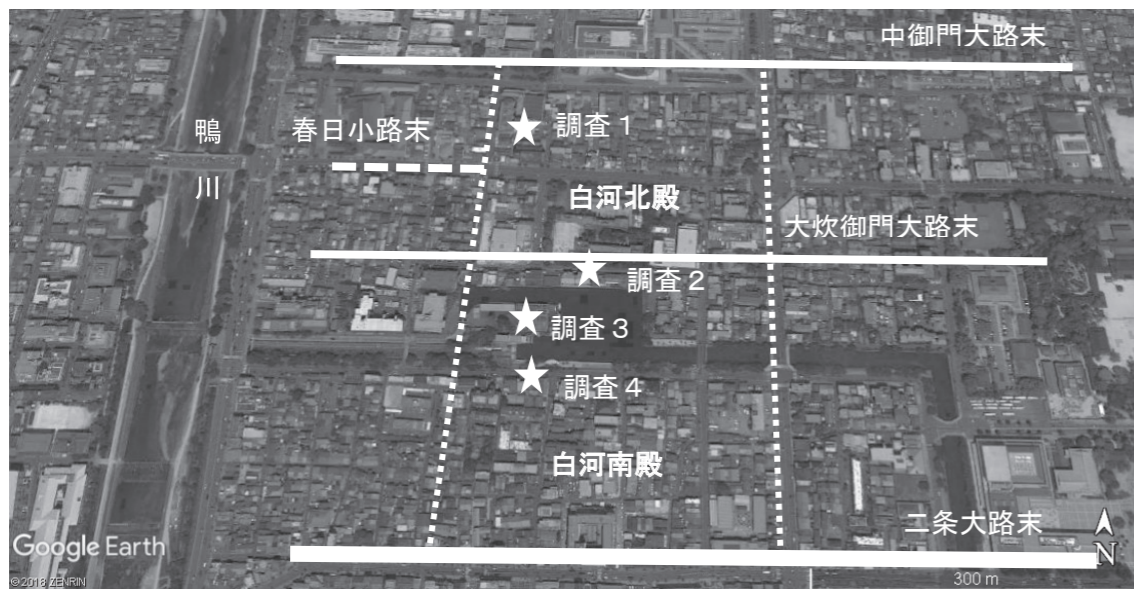


図 2 白河南殿・白河北殿の位置と発掘調査地点

(2)白河北殿・白河南殿の発掘成果

【調査 1】京都大学の熊野寮近くの丸太町通に面した箇所を発掘調査です。平安時代後期の池跡を検出しました。平安時代後期の瓦が出土しており、白河北殿の庭園の池の可能性がありますが〔吉崎 1995〕。



図 3 調査 1 全景(北から)

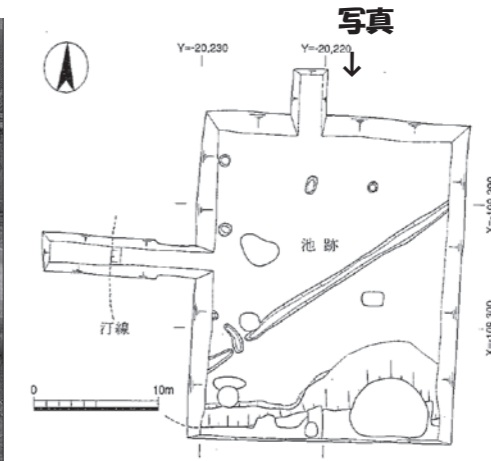


図 4 調査 1 平面図

【調査 2】熊野寮南側の疎水に面した箇所での発掘調査です。平安時代後期の二つの建物基礎跡を検出しました。一つは建物の基壇跡(建物 1)、もう一つは建物の地盤改良跡とみられる集石遺構(建物 2)です。この調査地点は、ちょうど大炊御門大路末（現在の竹屋町通の東への延長道路）の延長線上にあたるため、これらの建物跡が白河北殿の建物跡か白河南殿の建物跡となるか判断に苦しむところです。しかし、白河殿の御所に関連する遺構であることは間違いありません〔埋文研 2011-1〕。



図 5 調査 2 全景(東から)

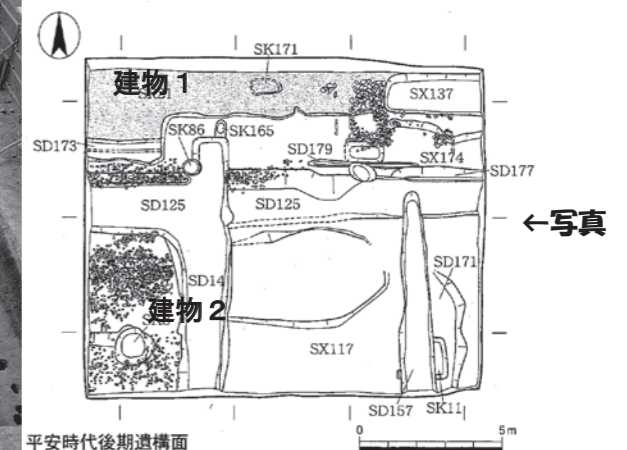


図 6 調査 2 平面図

【調査3】琵琶湖疎水の中に島のように浮かぶ関西電力夷川発電所構内での発掘調査です。礎石と礎石が抜かれ根固めの石のみが残る礎石跡が並んで見つかります。建物跡とそれに取り付く廊跡と考えられます。白河南殿跡の御所や御堂の跡であることは間違いありません〔梅川他 1985〕。



図7 調査3全景（北西から）

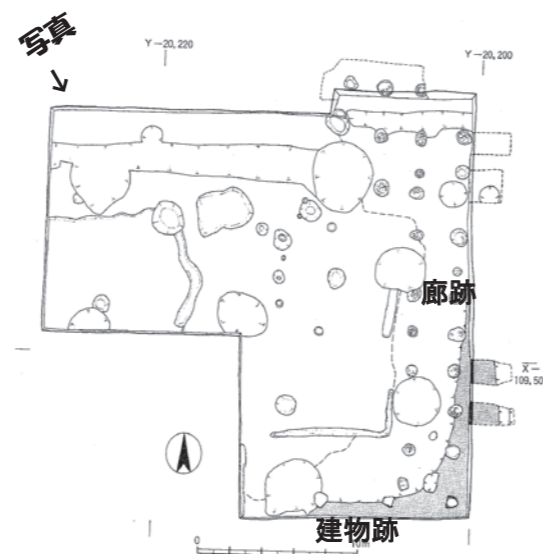


図8 調査3平面図

【調査4】冷泉通南側での発掘調査です。建物の基壇跡を2棟分検出しています。建物1は、基壇の縁辺に川原石を並べて外装としています。2～3mおきに並ぶ大きめの石は、束柱を受ける礎石です。建物2は、川原石を用いた雨落溝を検出しています。白河南殿の宮殿建築が2棟並んでいる状況が明らかになっています〔堀内 1981・埋文研 2011-2〕。

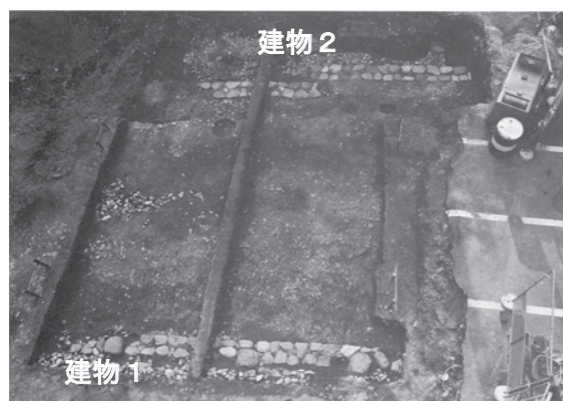


図9 調査4全景（東から）

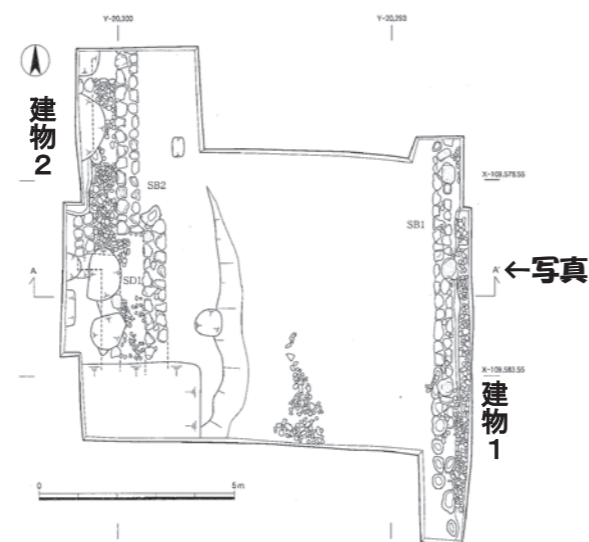


図10 調査4平面図

2 武士の邸宅

(1) 鴨川東の河原と武士

平治元年(1159)に起こった平治の乱を経て、清盛を中心とした平氏の権勢が高まり、武士の時代が到来します。平氏は、治承4年(1180)から始まる治承・寿永の乱により源氏に滅ぼされますが、この頃の武士の屋敷と考えられる遺跡が、吉田泉殿町遺跡(京都大学の西部構内付近の遺跡)で見ついています。治承・寿永の乱は、後白河法皇の皇子である以仁王の挙兵によって始まりますが、これに従った源頼政(1104~1180)の邸宅は「近衛南河原東」(山槐記)にあったことが記録に残されています。この場所は、現在の京都大学薬学部構内から病院構内の北半付近と思われます。院政の時代、上皇は勢力を強めるために武士を側近に取り込みました。院政の空間である白河殿に近く、比較的自由に開発できた鴨川東の河原辺は、武士が住まいを構えるにはうってつけの場所だったのかもしれません。

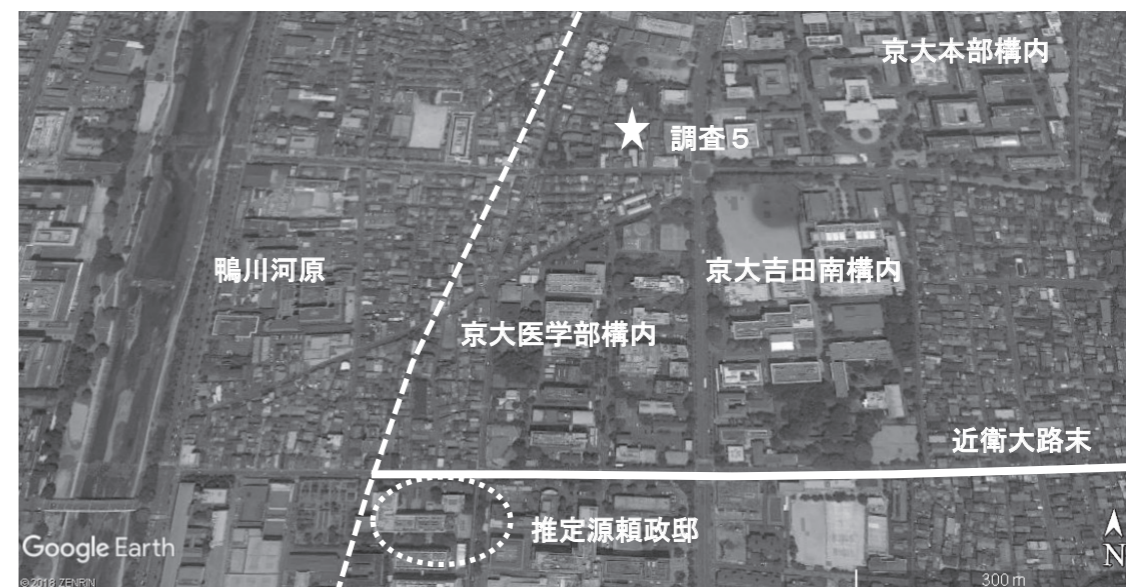


図11 推定源頼政邸の位置と発掘調査地点

【調査5】一条東大路の日仏会館西裏側で実施された発掘調査です。ここでは、12世紀末頃の屋敷の跡が見つかりました。屋敷は浅い堀とその内側の塀(柱列3)で囲われ、その内側に一辺10m以上ある建物や井戸が検出されました。注目すべきは、堀の外側にも2列の塀跡(柱列4・5)が見つかったことです。これは戦闘が起こった際に臨時に設置された仮設の防御施設と考えられます。堀の中からは土師器がまとめて捨てられていましたし、高級な酒器である高麗青磁の梅瓶(いわゆる瓶子)が出土していることから、この屋敷で、酒宴などが行われていたことがわかります。これらの特徴は、13世紀の末頃製作の「一遍上人絵伝」に描かれた筑前(現在の福岡県)の武士の館によく似ています。これらのことから、この屋敷の主は当時、朝廷や上皇に仕えるために上京した地方武士などの屋敷である可能性が指摘されています〔内田 1998〕。

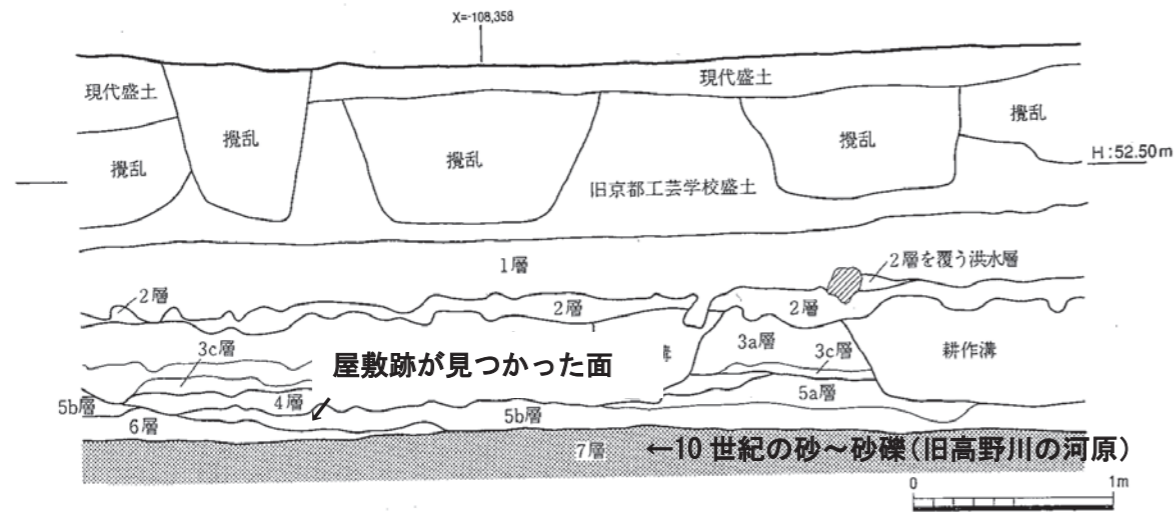


図12 調査5地層断面図

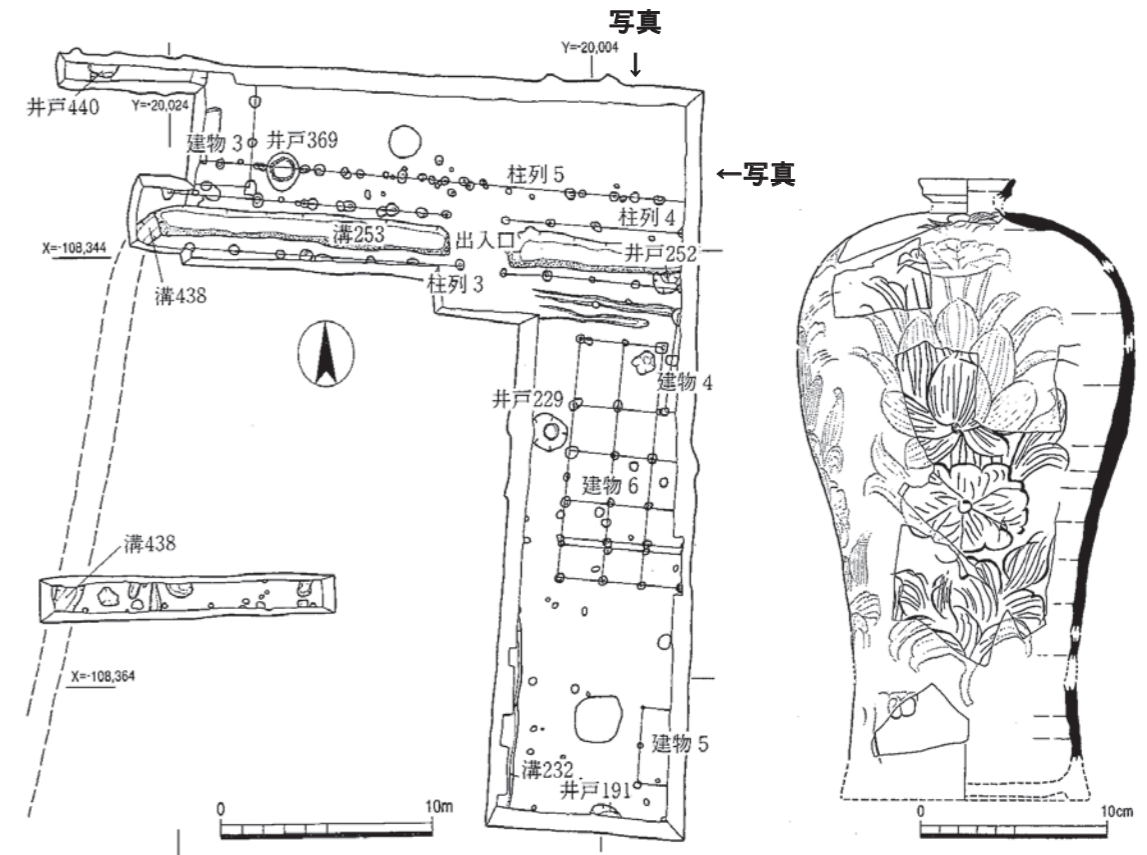


図15 調査5平面図

図16 調査5出土高麗青磁

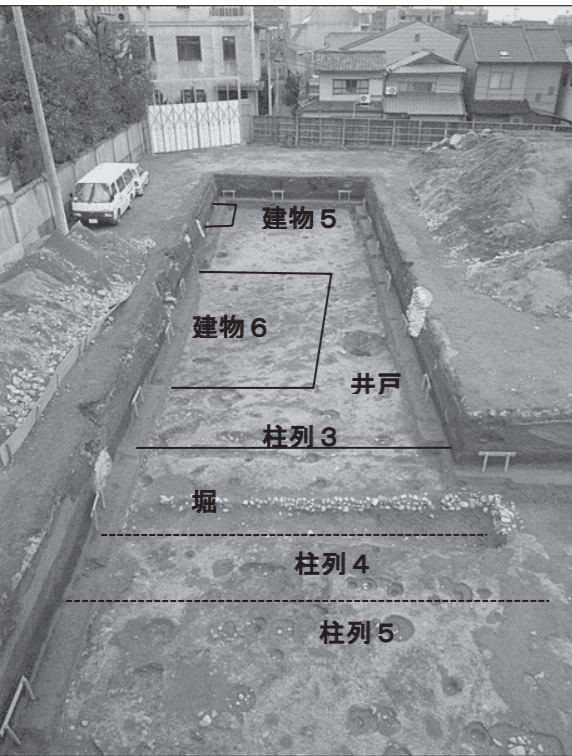


図13 調査5全景1(北から)

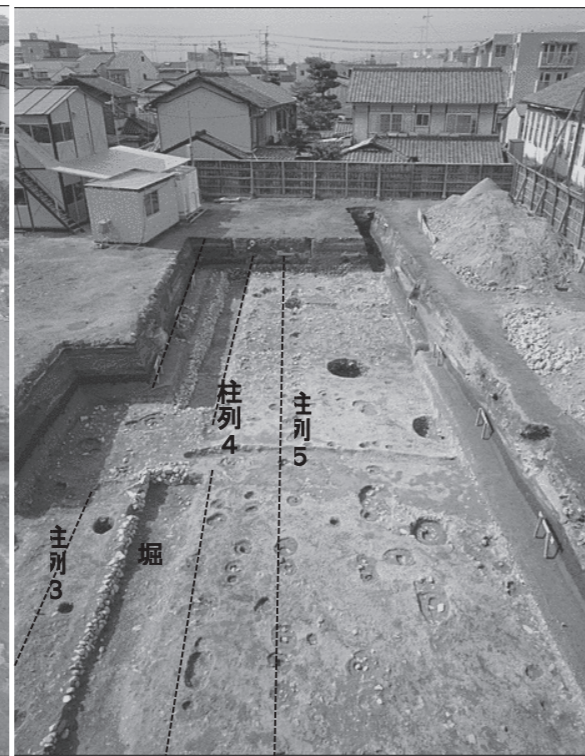


図14 調査5 全景2(東から)



図17 『一遍上人絵伝』に描かれた武士の屋敷〔小松編 1988〕

3 西園寺公経の吉田泉殿

関東に武家政権が成立した鎌倉時代に、鎌倉将軍家との姻戚関係や承久の乱(1221)の時の内通の功績などから勢力を伸ばした西園寺公経(1171~1244)は、貞応元年(1222)太政大臣に昇任し、朝廷において並びなき権勢を得ることになります。公経の本宅は一条室町第や今出川第が現在の上記区にありましたが、これとは別に鴨東吉田の地に泉殿という別邸がありました。ここで、夏の納涼、競馬、射弓、酒宴といった遊興が行われました〔笹川 2009〕。史料からは、家屋のほか、馬場、苑池、楼閣などがあったことが分かります。また、江戸時代には田畑の中に池や庭石が残っており、往時をしのぶことができたとする記録もあります。さて、吉田泉殿の場所ですが、現在「吉田泉殿町」とされている百万遍交差点の南西側、京都大学の西部構内付近が有力とされてきました。2008年から2009年にかけて京都大学文化財総合研究センターが実施した発掘調査で、庭園跡や仏堂跡とみられる遺構が検出され、吉田泉殿の旧地が明らかとなりました。

【調査6】2008年から2009年にかけて、京都大学が西部構内で行った調査です。川の流れを利用した遣水跡や景石、色とりどりの玉石を敷いた遺構など庭園の跡が見つっています。また、入念な基礎工事を施した建物の跡が見つっており、邸宅内に設けられた仏堂の遺構と考えられています〔伊藤ほか 2012〕。

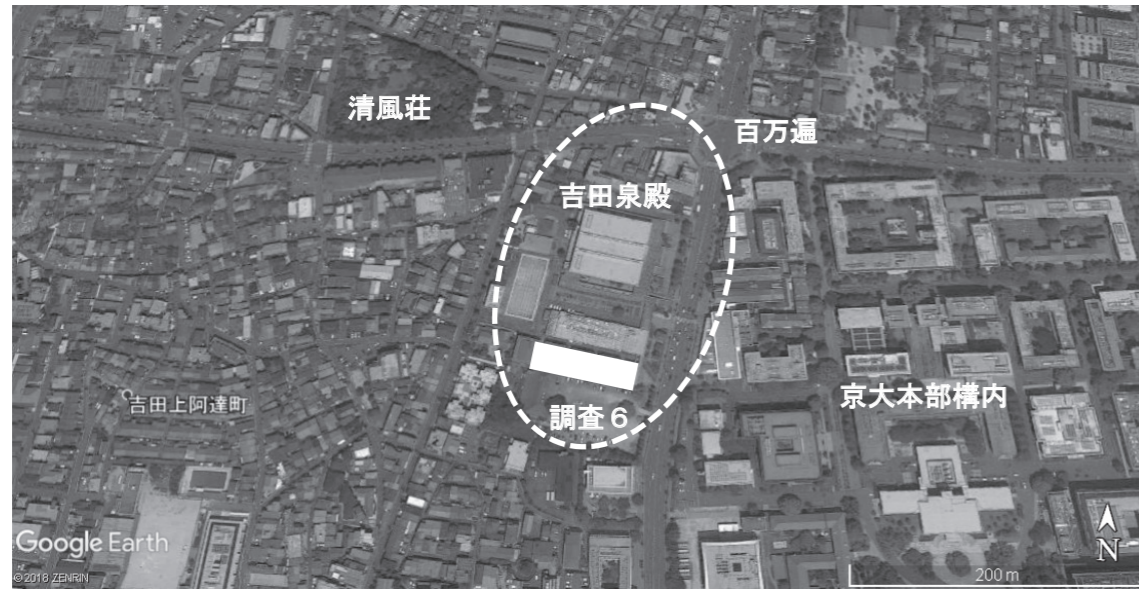


図 18 吉田泉殿の推定範囲と発掘調査地点(調査6)



図 19 調査6西区全景(北東から)

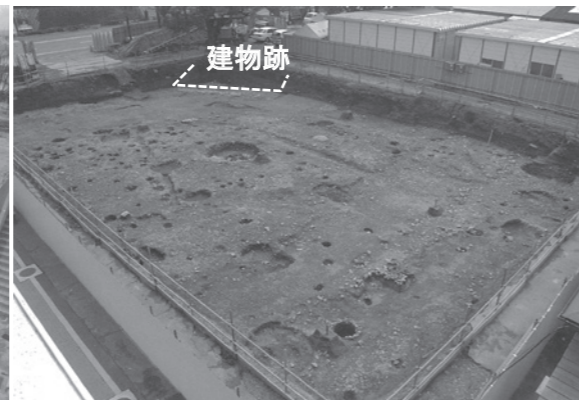


図 20 調査6東区全景(北西から)

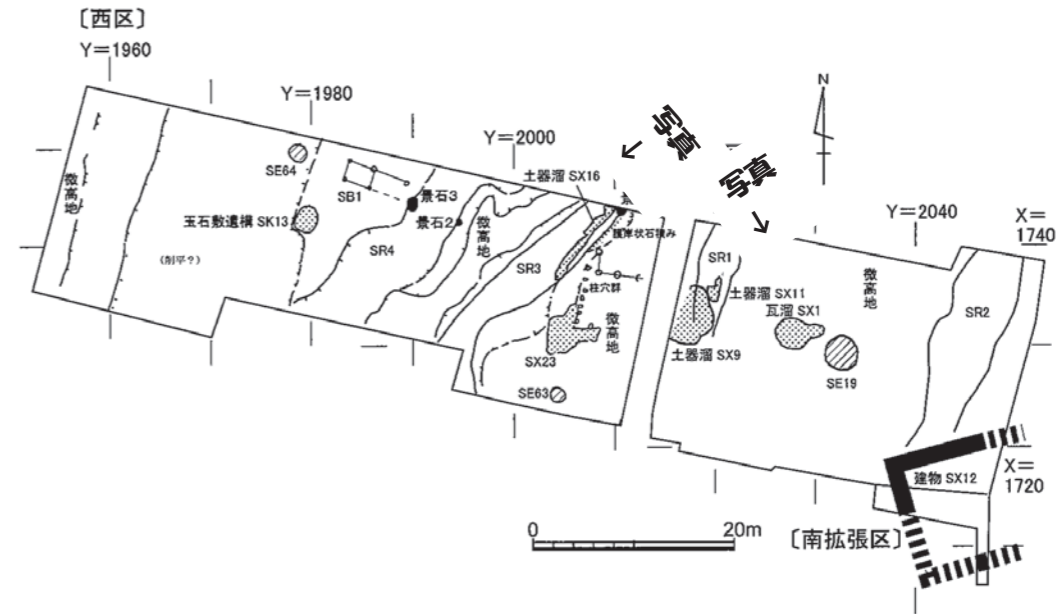


図 21 調査6全体平面図

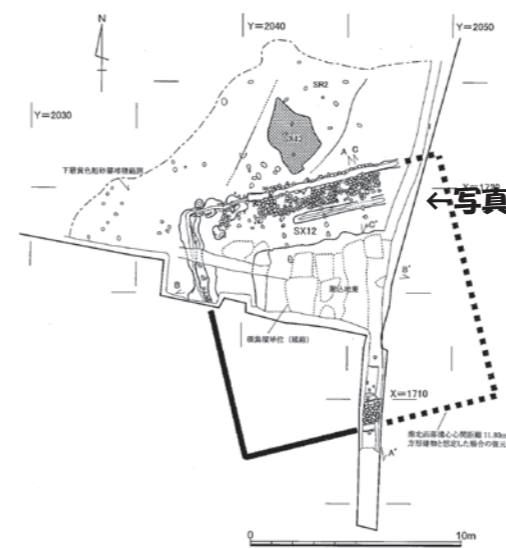


図 22 調査6建物跡平面図



図 23 調査6建物跡写真(北東から)

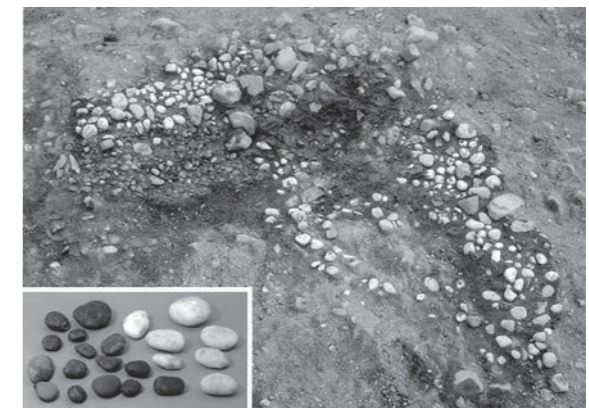


図 24 調査6玉石敷遺構⇒

4 鴨東の葬送地

平安時代、鴨東では天皇家や貴族の葬送が多く行われました。嵯峨天皇の娘で藤原良房の妻源潔姫（810～856）の墓、藤原良房（804～872）の墓、清和天皇（850～881）の火葬塚、陽成天皇（868～949）の墓、後一条天皇の中宮章子内親王（1027～1105）の墓などが記録に見えますし、現在も多くの陵墓がおかれています。また、黒谷付近には中世から続く墓地群があり、化野や鳥辺野とならぶ京都に住む人々の葬送の場となっていました。また、京都大学北部構内の調査9では、鎌倉時代の火葬塚とみられる遺構が見つっています。

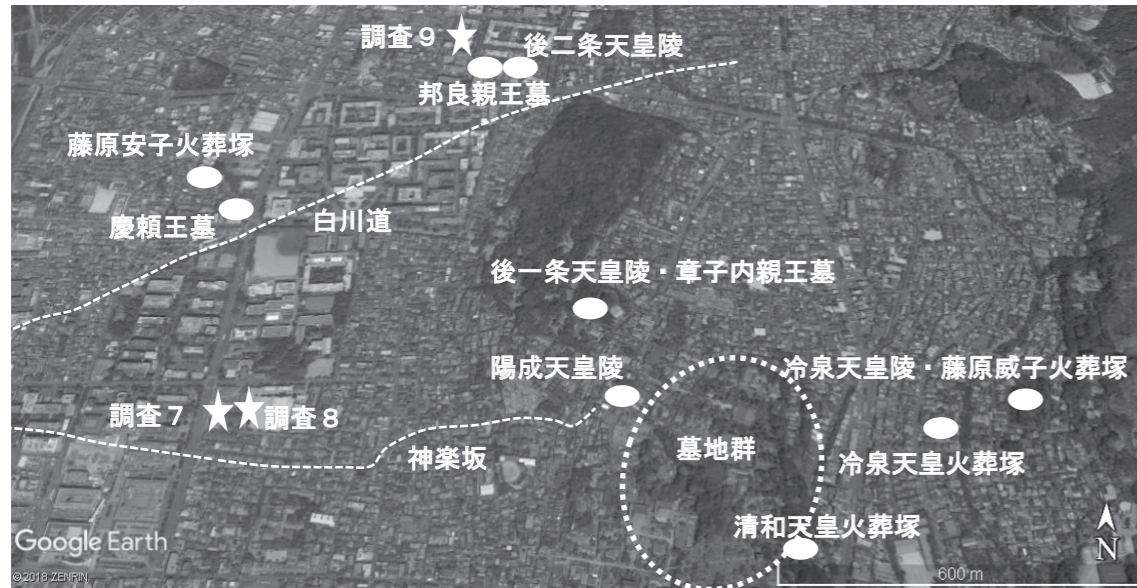


図25 鴨東の陵墓と発掘調査地点

(1) 近衛中学校付近の調査

神楽岡・黒谷の葬送地へ続く道が荒神橋付近から神楽坂に向かう道です。これに近接した近衛中学校近くの調査7・8では、中世の墓が見つっています。

【調査7】東大路と近衛通の交差点付近での調査です。ここでは鎌倉時代の様々な形態の墓が見つっています。木製の棺を用いる墓や多量の土器や硯を供えた墓があることから、庶民の墓ではなく、比較的高位の階級に属する人たちの墓と考えられます。〔中谷2017〕

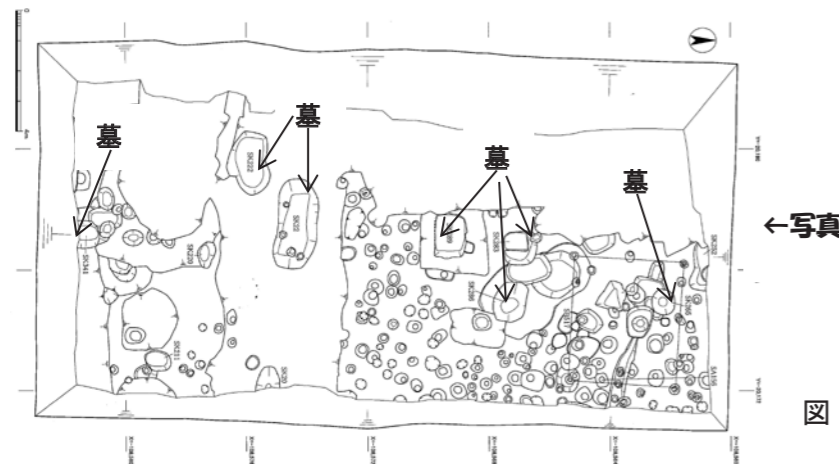


図26 調査7平面図



図27 調査7全景(北から)

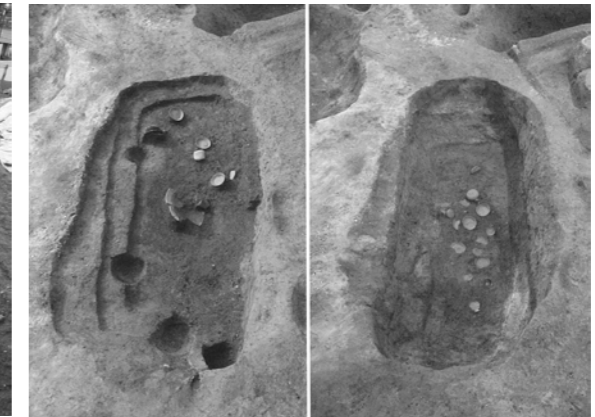


図28 墓22上層

図29 墓22下層

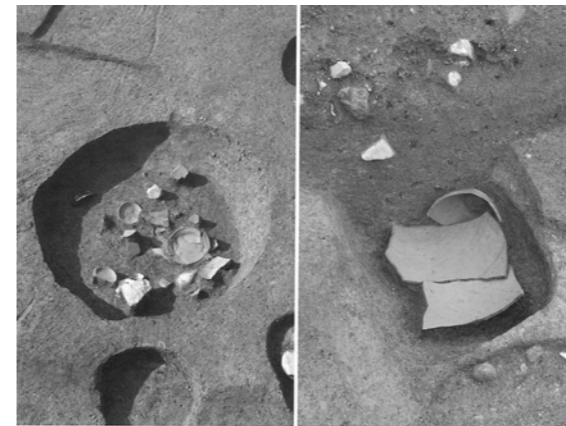


図30 墓265

図31 墓341

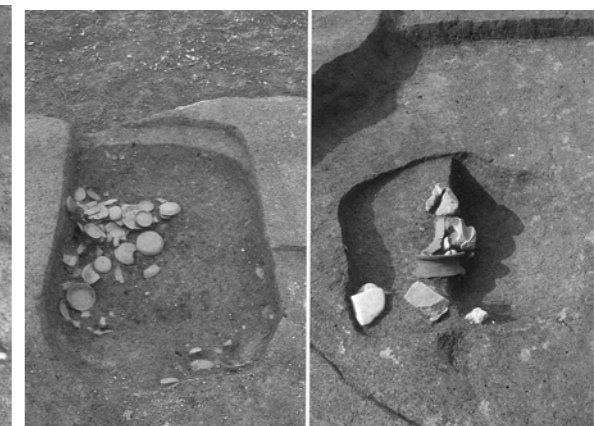


図32 墓289

図33 墓286



図34 墓286出土の硯(左：写真、右：実測図)

【調査8】近衛中学校構内での発掘調査です。ここでは、鎌倉時代の穴の中に川原石がぎっしり詰まった穴(集石遺構)が多数見つっています。集石遺構の性格は明らかにされていませんが、穴の中からは、多量の土器や硯など副葬品の可能性がある遺物が出土しています。また、鉄釘が出土しており、これを木製の棺に用いられたものと考え、墓の可能性が指摘できます〔近藤2012〕。

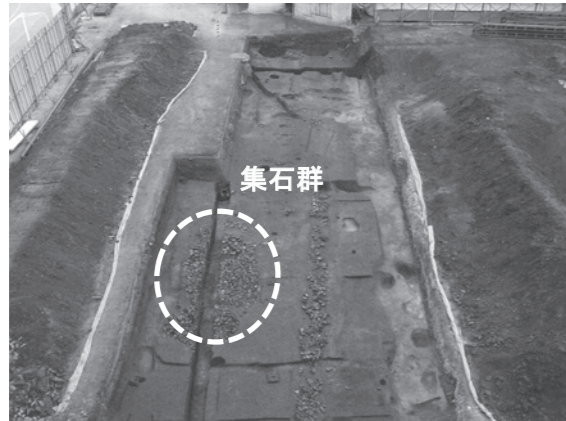


図 35 調査 8 全景 (北から)



図 37 集石遺構 (北から)

【調査 9】京都大学北部構内での発掘調査です。ここでは、正方形に溝をめぐる中央に墳丘を持つ遺構が検出されています。火葬をした場所に築かれた墓「火葬塚」の遺構と考えられます〔岡田ほか 1979〕。

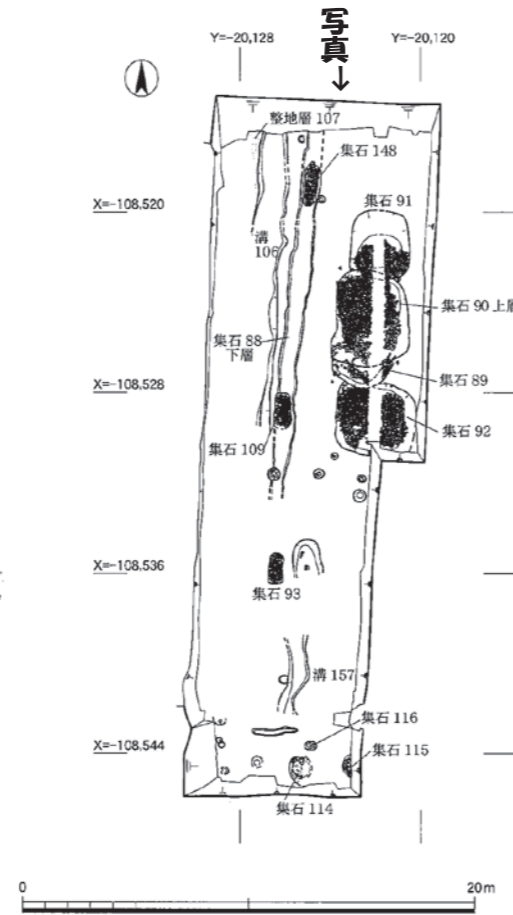


図 36 調査 8 平面図



図 38 火葬塚検出状況 (南西から)



図 39 保存・復元された火葬塚 (東から)

～参考文献(五十音順)～

- 五十川 1981…五十川伸矢「平安京・中世京都の葬地と墓制」京都大学埋蔵文化財研究センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和 55 年度』1981 年 9 月、53～62 頁。
- 伊藤ほか 2012…伊藤淳史・笹川尚紀「京都大学西部構内 AW20 区の発掘調査」京都大学文化財総合研究センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報 2009 年度』2012 年 3 月、3～110 頁。
- 井上 1992…井上満郎「みなもとよりまさ 源頼政」『国史大辞典』13、吉川弘文館、1992 年 4 月、430～431 頁。
- 今江 1985…今江広道「さいおんじきんつね 西園寺公経」『国史大辞典』6、吉川弘文館、1985 年 11 月、123～124 頁。
- 入間田 1991…入間田宜夫『武者の世に』日本の歴史 7、集英社、1991 年 12 月。
- 内田 1998…内田好昭「京都大学構内遺跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『平成 8 年度京都市埋蔵文化財調査概要』1998 年 3 月、69～74 頁。
- 宇野 1979…宇野隆夫「鴨東の開発」京都大学埋蔵文化財研究センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和 53 年度』1979 年 3 月、71～80 頁。
- 梅川他 1985…梅川光隆・本弥八郎「白河南殿跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『昭和 58 年度京都市埋蔵文化財調査概要』1985 年 3 月、52～54 頁。
- 岡田ほか 1979…岡田保良・吉野治雄「京大理学部遺跡 BE29 区の発掘調査」京都大学埋蔵文化財センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和 53 年度』1979 年 3 月、17～38 頁。
- 京都市 1971…京都市『京都の歴史 2 中世の明暗』学芸書林、1971 年 5 月。
- 小松茂美編『一遍上人絵伝』日本の絵巻 20、中央公論社、1988 年 11 月。
- 近藤 2012…近藤奈央『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告 2011-3、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2012 年 1 月。
- 笹川 2012…笹川尚紀「吉田泉殿の沿革」京都大学文化財総合研究センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報 2009 年度』2012 年 3 月、97～100 頁。
- 杉山 1981…杉山信三『院家建築の研究』吉川弘文館、1981 年 9 月。
- 中谷 2017…中谷正和『白河街区跡・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告 2016-12、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2017 年 3 月。
- 堀内 1981…堀内明博「白川南殿 C 調査区」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『六勝寺跡』京都市埋蔵文化財調査センター、1981 年 3 月、19～34 頁。
- 埋文研 2011-1…「白河北殿跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『昭和 55 年度京都市埋蔵文化財調査概要』2011 年 9 月、67～69 頁。
- 埋文研 2011-2…「白河南殿跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『昭和 55 年度京都市埋蔵文化財調査概要』2011 年 9 月、70～71 頁。
- 山田 2009…山田邦和「京都の都市空間と墓地」同『京都都市史の研究』吉川弘文館、2009 年 6 月、241～268 頁。
- 吉崎 1995…吉崎伸「白河北殿跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『平成 4 年度京都市埋蔵文化財調査概要』1995 年 9 月、45 頁。